

2023年5月14日 LINEメッセージ 日本キリスト兄弟団 新下関教会

<http://olive.lovepop.jp/LINEsound/2023/20230514.mp3>

廣川和行牧師 ヨハネの福音書 14章 22節～27節

「私の平安を与えます」

10分 28秒

14:22 イスカリオテでないほうのユダがイエスに言った。「主よ。私たちにはご自分を現そうとなさるのに、世にはそうなさらないのは、どうしてですか。」

14:23 イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。

14:24 わたしを愛さない人は、わたしのことばを守りません。あなたがたが聞いていることばは、わたしのものではなく、わたしを遣わされた父のものです。

14:25 これらのことを、わたしはあなたがたと一緒にいる間に話しました。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

14:27 わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。

おはようございます。

雨が降り、木々が生き生きとしています。

けれども、草もまた勢いよく伸びています。

今日は母の日です。

この世に生まれた今ある命を感謝したいと思います。

さて今日はヨハネの福音書 14章 22節から 27節です。

この箇所は先週に引き続き、

最後の晩餐の席でのイエス様と弟子とのやり取りです。

弟子の一人イスカリオテ出身でない方のユダがイエス様に質問しました。

「主よ。私たちにはご自分を現そうとなさるのに、世にはそうなさらないのは、どうしてですか。」

このように質問をしたユダは、

イエス様は、ご自身について、またその働きを、

弟子たちだけに語られているが、

世のすべての人々に

イエス様がそのことを伝えるべきではないかと思ったのです。

ユダの質問に対してイエス様はこのように答えました。

イエス様を愛し、イエス様の言葉である「イエス様に愛されたように互いに愛し合いなさい」という命令を守る人のところに、

父なる神様と子なる神であるイエス様とは、

その人のところに行って住むのです。

裏を返せば、イエス様を愛さず、

互いに愛し合うことをしない人のところに、

父なる神様もイエス様も行かないし、

その人のうちに住まわれないのです。

第一ヨハネの手紙 4 章 8 節 9 節にはこのように書かれています。  
「愛のないものは神を知りません。神は愛だからです。  
神はそのひとり子を世に遣わし、  
その方によって、私たちに命を得させてくださいました。  
それによって神の愛が私たちに示されたのです。」  
父なる神様もイエス様も愛の性質を持つ方です。  
ですからイエス様を愛し信じる者にご自身を現されるのです。  
イエス様を愛する人が神様を知ることができるのです。  
イエス様はイエス様を愛する人たちだけに  
これらのことを話されたのです。  
イエス様を愛し、互いに愛し合うように命じた弟子たちに、  
イエス様は 2 つの約束を与えました。  
一つは、  
助け主すなわち、父なる神様がイエス様の名によって遣わされる  
聖霊なる神様は、  
弟子たちにすべてのことを教え、  
イエス様が話した全てのことを思い起こさせてくださるという約束です。  
私たちが神様の言葉である聖書を読んでいく時に、  
書かれていることの意味がよくわからない箇所や、  
自分の敵を愛しなさいというイエス様の命令など、  
従うことが難しいと感じる箇所があります。  
でも心配ありません。  
聖霊なる神様が  
ふさわしい時に私たちに神様の言葉の意味を教えてください、  
また従うことが難しいことをできるように私たちを導いてくださいます。  
また必要な時に聖書の御言葉を思い出させてくださいます。  
私たちに求められるのは、聖霊なる神様に信頼して歩むことです。

もう一つは  
イエス様はイエス様を愛する弟子たちに平安を残します。  
私の平安を与えますという約束です。  
それはこの世が弟子たちに決して与えることができない  
イエス様だけが与えることのできる平安です。  
人は誰でも平和を求めています。心に平安を欲しています。  
しかし私たちの得る平安には 2 種類あるように思います。  
一つは  
世が与えるのと同じような平安です。  
それは安定した生活であったり、自分の求めたものや願いが叶うこと  
や、物事が期待通りになったりすることからくる平安です。  
一方、イエス様の与える平安があります。  
それは父なる神様とイエス様が  
私たちの内に住んでくださることによる平安です。  
それは試練の中に置かれていても、  
自分の願いが叶ってもかなわなくても、  
物事が期待通りになってもならなくても、  
置かれた状況や結果いかに左右されない、  
主イエス様から来る平安です。  
父なる神様とイエス様が私たちが愛して下さり、  
神様の平和の計画に従ってすべてが進められ、  
最善のことが成し遂げられると、  
イエス様の言葉によって知っていることから来る平安です。

私は新下関教会の開拓当初にこのような経験をしました。  
全くゼロから新しくスタートすることになった新下関教会です。  
この地域で開拓伝道することは教団で決めていたことでした。  
まず下関の勝山一の宮地域で、  
礼拝や集会をすることのできる家探しから始まりました。

下関中の不動産屋さんを回りました。  
最終的に大家さんが礼拝に使っても良いと言われた物件が一つだけ見つかりました。  
築40年余りの古い平屋の家で、  
窓枠・玄関ドアも全て木で作られたものです。  
私は主にもう少し新しい家を与えてくださいと望みました。  
ところがどこにも集会に使ってよく、  
駐車場も数台取れる物件というのは他に見つかりませんでした。  
そこで私は  
ここが主が備えておられる教会の働きを始める家でしょうか？  
畳にはカビが生えていますし、かなり古くて暗い感じです。  
その割に家賃は安くありません。  
でも大家さんが私たちが集会する許可を出してくれたのはこの家しかありません。  
あなたの御心を教えてくださいと祈りました。  
祈った後、主は私の心に平安を与えられました。  
そこで私は最初気が進まない古い家でしたが、  
ここを借りて教会開拓の働きを始めるという決断に、  
不安や心配はなくなりました。  
7畳半の部屋から出発した礼拝室は  
2年後に12畳のプレハブとなり、20年間その家が用いられて、  
今この一の宮の地に新しく教会堂が建っています。  
主イエス様に信頼して、御心に従って歩もうとする時に、  
イエス様は私たちに平安を与えてくださるのです。  
イエス様は心を騒がせてはなりませんと  
14章の冒頭で弟子たちに語っています。  
あなた方は心を騒がせてはなりません。神を信じまた私を信じなさい。  
神様は私たちが心を騒がせたりひるんでしまう時、  
私たちに平安を与えてくださいます。

そしてイエス様に信頼して歩む姿は、  
私たちがイエス様の弟子であることをこの世に証ししていくのです。  
この頃、天候が不順ですが、  
皆様の健康が守られ今週の歩みが豊かに祝福されますようにお祈りをいたします。

お祈りいたします。  
ご在天の父なる神様、  
私たちが愛し慈しんでくださっているあなたの御名を褒め称えます。  
先週一週間、一人ひとりの歩みを守り導いてくださったことを感謝いたします。  
私たちは  
心騒ぐ時があります。  
聖霊なる神様に信頼して、  
イエス様から  
与えられる平安をもって  
歩んでいきたいと  
願っています。  
私たちの今週の歩みを守り導いてください。  
病を得ている方々を癒し健やかにしてください。  
試練の中で苦闘しておられる方々を励まし支えてください。  
主イエス・キリストの恵みと神の愛と聖霊との親しき交わりが、  
会衆一人一人の上に、今も後もとこしえまでも力強くあらんことを。  
アーメン。



◇ Angels Unseen ◇

